工学研究科

第１章	理念・目的	1
第３章	教員・教員組織	5
第４章	教育内容・方法・成果	
1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	9
2	教育課程・教育内容	14
3	教育方法	18
4	成果	24
第５章	学生の受け入れ	27
第７章	教育研究等環境	33

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
1	理念・目的

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
101	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
現在の状況（年度開始時）	
工学研究科は、建学の精神と校訓に基づき「教育研究上の目的」を学則に定め、さらに「教育理念及び教育方針と目標」を策定している(資料1､2)。 理念・目的は概ね適切であるが、各資源から見た適切性を明確にする必要がある。また、本研究科の特徴が明確でないため、理念・目的における研究科の特徴を明確にする必要がある。	

項目No	点検・評価項目
102	大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。
現在の状況（年度開始時）	
理念・目的はホームページ上で公表し、大学構成員のみならず社会にも広く周知している(資料 3)。「教育理念及び教育方針と目標」については、「履修要綱」にも掲載し、大学構成員への周知を図っている(資料 4)。また、入学を志望する段階での受験のための案内書にも、本研究科の理念・目的を記載し、学生には入学前から事前周知を行っている。今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。 なお、理念・目的について、設置の趣旨（設置申請書類）とホームページ、ガイドブック、『履修要綱』等との掲載内容における整合性を確認する必要がある。	

項目No	点検・評価項目
103	大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
現在の状況（年度開始時）	
工学研究科自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・目的の適切性を定期的に検証している(資料 5)。	

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
101	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・実績や資源からみた理念・目的の適切性を明確にする。 ・理念・目的における研究科の特徴を明確にする。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
①	理念・目的を明確にしているか。	明確にしている/~~していない~~
②	理念・目的間の整合性は取れているか。	取れている/~~取れていない~~
③	実績や資源からみて理念・目的は適切か。	適切である/~~適切でない~~
④	理念・目的の個性化	

項目No	点検・評価項目	
102	大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・理念・目的の周知方法の有効性について検証する。 ・理念・目的の設置の趣旨（設置申請書類）、ホームページ、ガイドブック、『履修要綱』等における整合性を確認し、整合性を取る。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑤	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性	周知している/~~していない~~
⑥	社会への公表方法	公表している/~~していない~~
⑦	明示媒体による違いはないか。	違いはない/~~違いがある~~

項目No	点検・評価項目	
103	大学･学部･研究科等の理念･目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
･引き続き、工学研究科自己点検･評価委員会の規程に基づき、理念･目的の適切性について当該委員会で定期的に検証を行う。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑧	定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/~~行っていない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th rowspan="3" colspan="2">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="4">101</td><td rowspan="4">大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。</td><td>①</td><td>理念・目的を明確にしているか。</td><td>A</td><td rowspan="4">B</td><td rowspan="9">A</td><td>S</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="9">B</td></tr>
<tr><td>②</td><td>理念・目的間の整合性は取れているか。</td><td>-</td><td>A</td></tr>
<tr><td>③</td><td>実績や資源からみて理念・目的は適切か。</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>④</td><td>理念・目的の個性化</td><td>B</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">102</td><td rowspan="3">大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。</td><td>⑤</td><td>大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td>A</td><td rowspan="3">B</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>社会への公表方法</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>明示媒体による違いはないか。</td><td>B</td><td>B</td></tr>
<tr><td>103</td><td>大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。</td><td>⑧</td><td>定期的に検証を行っているか。</td><td colspan="2">A</td><td colspan="2">A</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料 No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院学則　第５条第２項
2	大学及び学部・研究科の教育理念及び教育方針と目標
3	関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」（1.大学の教育研究上の目的に関すること） http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2015/disclosure_1-1-3.pdf
4	2015 年度履修要綱（工学部・大学院工学研究科）
5	関東学院大学大学院工学研究科自己点検・評価委員会規程

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
3	教員・教員組織

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

現在の状況（年度開始時）

工学研究科の教員に求める能力・資質を関東学院大学大学院工学研究科教員選考基準および関東学院大学大学院工学研究科教員選考に関する内規に教員の選考基準として定めている(資料 1、2)。

研究科教員構成として研究科委員長のもとに各専攻主任を配置し、専攻主任が専攻内での議論を活かす運営体制を整えている。

研究科の意思決定・調整機関として研究科委員会を設置し教育・研究にかかる責任の所在を明らかにするとともに、研究科委員会のもとに、自己点検・評価委員会、FD 委員会等を設置し、教員の参加と役割分担を明確にして組織的な連携体制を構成している。

項目No	点検・評価項目
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

現在の状況（年度開始時）

設置基準上必要となる教員数を満たす研究科の教員を配置している(資料 3)。

博士後期課程について、2016 年度より 1 研究科 2 専攻(総合工学専攻及び建築学専攻)とすることを決定した(資料 4)。

これに伴い、機械工学・電気工学・土木工学・工業化学の各専攻は、総合工学専攻 1 専攻として総合的な研究指導体制を敷くこととなる。そのために電気工学専攻に所属し、機械工学専攻と協力してロボット分野の研究教育を行っている D 合教授が 2014 年度に移籍した(資料 3)。

カリキュラムの作成において、教員の専門分野との適合性を判断している。教員組織編成(科目担当教員および指導教授)については、その適切性の検証に関する責任主体は工学研究科委員会が担っている。

科目担当教員及び研究指導担当教員の資格については、関東学院大学大学院工学研究科教員選考基準及び関東学院大学大学院工学研究科教員選考に関する内規を定め明確化しており、その配置については専門分野毎にマル合教員を中心にグループ化し講義科目を調整するなど適正化を行っている(資料 1、2)。

項目No	点検・評価項目
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

現在の状況（年度開始時）

大学院担当教員は学部教員の兼担であるため、採用人事は学部教授会を通じて、大学全体の規程・基準・方針に基づいて定めた教員像に沿って教員を選考している。

大学院担当への新任・昇格人事については、研究科人事委員会で審査している。大学院担当への昇格に際しては、大学院での教育経験年数を前提に審査されるようにしている。規程等に基づき、工学研究科人事委員会を中心に資格審査を行って、工学研究科委員会がこれを審議・承認している。なお、資格審査については、研究業績に加えて社会的活動状況、大学院生の研究指導経験などにより行っている(資料 1、2)。

項目No	点検・評価項目
304	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。(※ここでの FD は「教員の資質向上」に関する活動を指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No.411 参照。)

現在の状況（年度開始時）

2013 年度より、専任教員の自己点検・評価を開始した。2014 年度についても全専任教員に教員の教育研究活動について自己点検評価シートの提出を求めている。

FD 活動については、毎年、大学院生による教育・研究指導評価、FD 研修会をそれぞれ開催し、教員相互の教育研究に関する情報共有を推進している。

また、教員の教授法などの公開により教育能力を向上させている。(大学院生による教育・研究指導評価、FD 研修会をそれぞれ年 1 回行っている)。専攻によっては、修士論文審査を控えた早い段階(最も早い場合は博士前期課程 1 年次)から、研究指導を受ける主査と副査を仮決めし、複数教員による指導体制を確立している。これは、大学院生にとっては、1 人の指導教員に限らず、他の教員からもアドバイスを受けることができ、審査を担当する教員においては、相互刺激を期待できる仕組みである。

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・「教員の使命と役割」の明文化等について確認する。 ・「法令で規定されている要件を満たしているか確認する。 ・教育に関する諸権限と責任は、教員個人ではなく教育組織に帰属していることについて確認する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
評価の視点		
①	教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	明確にしている/~~していない~~
②	教員構成を明確にしているか。	明確にしている/~~していない~~
③	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。	明確にしている/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・「教員組織の編制方針」（明示有無や明文化されている内容等）について再度確認する。 ・恒常的チェック体制を再度確認し、整備する。 ・「恒常的チェック体制が整備され機能しているか」について確認する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
評価の視点		
④	編制方針に沿った教員組織を整備しているか。	整備している/していない
⑤	専任教員の年齢構成等は適切か。	適切である/~~適切でない~~
⑥	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。	整備している/~~していない~~
⑦	研究科担当教員の資格を明確にしているか。（研究科、法務研究科）	明確にしている/~~していない~~
⑧	研究科担当教員を適正配置しているか。（研究科、法務研究科）	適正配置している/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教員の募集・採用・昇格を適切に行う。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑨	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確にしているか。	明確にしている/~~していない~~
⑩	規程等に従った適切な教員人事を行っているか。	行っている/~~行っていない~~

項目No	点検・評価項目	
304	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。（※ここでのFDは「教員の資質向上」に関する活動を指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No.411 参照。）	
方針・目標・取組・改善方策等		
・各方策の有効性について検証する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
工学研究科単独でFD委員会を立ち上げた。		工学研究科FD委員会を主体にFD活動を推進していく。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
評価の視点		
⑪	教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。	実施している/~~していない~~
⑫	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性	実施している/~~していない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

項目No	点検・評価項目	評価の視点		自己評価					
				2014年度			2015年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	①	教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	B	B	B	A	B	B
		②	教員構成を明確にしているか。	A			A		
		③	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。	B			B		
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	④	編制方針に沿った教員組織を整備しているか。	B	B		B	B	
		⑤	専任教員の年齢構成等は適切か。	B			B		
		⑥	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。	B			B		
		⑦	研究科担当教員の資格を明確にしているか。（研究科、法務研究科）	B			B		
		⑧	研究科担当教員を適正配置しているか。（研究科、法務研究科）	B			B		
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	⑨	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確にしているか。	A	A		A	A	
		⑩	規程等に従った適切な教員人事を行っているか。	A			A		
304	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。	⑪	教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。	A	B		A	A	
		⑫	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性	B			A		

※ 評価基準：基準項目に対する評価　　評価項目：点検・評価項目に対する評価　　評価視点：評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院工学研究科教員選考基準
2	関東学院大学大学院工学研究科教員選考に関する内規
3	2014年度大学院工学研究科委員会（博士前期課程・博士後期課程）構成員
4	2015年度第5回大学院工学研究科委員会議事録
5	工学研究科FD委員会規程（2015年3月工学研究科委員会議事録）

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
4	教育内容・方法・成果
41	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
411	教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。
現在の状況（年度開始時）	
＜教育目標の明示について＞ 教育目標（教育方針と目標）を明確に示している（資料 1）。 ＜3 ポリシー（学位授与方針（ディプロマ・ポリシー））の明示について＞ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の 3 つのポリシー（以下「3 ポリシー」という。）を示しているが、大学院全体版に即し、再策定を進めているところである（資料 1）。 ＜学位授与の要件（卒業の要件）の明示について＞ 学位授与の要件（修了の要件）について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している（資料 2～4）。	

項目No	点検・評価項目
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。
現在の状況（年度開始時）	
＜3 ポリシー（教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー））の明示について＞ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の 3 つのポリシー（以下「3 ポリシー」という。）を示しているが、大学院全体版に即し、再策定を進めているところである（資料 1）。 ＜科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について＞ 授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している（資料 2～4）。	

項目No	点検・評価項目
413	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が、大学構成員（学生・教職員）に周知され社会に公表されているか。
現在の状況（年度開始時）	
教育目標、学位授与の要件（修了の要件）、授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、履修要綱およびホームページに掲載し、学生・教職員への周知および社会への公表を行っている（資料 4、5）。 なお、3 ポリシーは、大学院全体版に即した再策定に合わせて、ホームページおよび履修要綱への掲載について整備する必要がある。 今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。	

項目No	点検・評価項目
414	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っているか。
現在の状況（年度開始時）	
研究科委員会および自己点検・評価委員会を中心に、教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）について、定期的に検証を行っている（資料 6、7）。現在、教育目標の達成状況について、学生（大学院生）および教職員によるアンケート調査により評価することを検討中である。	

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
411	教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・3 ポリシーを再策定する。 ・教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を取る。 ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
評価の視点		
①	教育目標を明示しているか。	明示している/~~していない~~
②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	明示している/~~していない~~
③	教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性は取れているか。	取れている/~~取れていない~~
④	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示しているか。	明示している/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の整合性を取る。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
評価の視点		
⑤	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	明示している/~~していない~~
⑥	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性は取れているか。	取れている/~~取れていない~~
⑦	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。	明示している/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
413	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が、大学構成員（学生・教職員）に周知され社会に公表されているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・3 ポリシーを再策定し、ホームページおよび履修要綱への掲載を行う。 ・周知方法の有効性について検証していく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑧	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性	周知している/~~していない~~
⑨	社会への公表方法	公表している/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
414	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っていく。 ・教育目標の達成状況について、学生（大学院生）および教職員によるアンケート調査により評価することを実施する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
3 ポリシーを再策定する必要がある。		文科省指針（ガイドライン）を待って、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を再策定する。
評価の視点		
⑩	定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/~~行っていない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

項目No	点検・評価項目	評価の視点		自己評価					
				2014年度			2015年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
411	教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	①	教育目標を明示しているか。	A	B	A	A	C	C
		②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	A			A		
		③	教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性は取れているか。	B			B		
		④	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示しているか。	C			C		
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	⑤	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	A	A		A	A	
		⑥	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性は取れているか。	A			A		
		⑦	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。	A			A		
413	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が、大学構成員（学生・教職員）に周知され社会に公表されているか。	⑧	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性	B	A		B	B	
		⑨	社会への公表方法	A			A		
414	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っているか。	⑩	定期的に検証を行っているか。	A			A		

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学 理念・目的等 p.58～62
2	関東学院大学大学院学則 第2～3章
3	関東学院大学工学研究科履修規程
4	工学部・大学院工学研究科「2015年度履修要綱」
5	関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」(1.大学の教育研究上の目的に関すること、5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること、6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること) http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html
6	関東学院大学大学院工学研究科委員会規程
7	関東学院大学大学院工学研究科自己点検・評価委員会規程

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
4	教育内容・方法・成果
42	教育課程・教育内容

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
421	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

現在の状況（年度開始時）

機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻、土木工学専攻の博士前期課程および博士後期課程、物質生命科学専攻の博士前期課程、工業化学専攻の博士後期課程により、教育課程を編成している。各専攻課程においては、学則および履修規程、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、必要な授業科目を開設し、修了要件を定めている(資料 1～4)。

各専攻課程においては、各専修分野を設置し、専修科目（必修科目を含む）および選択科目に授業科目を区分して、教育課程を体系的に編成している。

機械工学専攻では、計測・制御工学専修、機械情報工学専修、材料力学・設計工学専修、流体工学専修、熱工学専修、材料・生産工学専修の専修科目を開設している。

電気工学専攻では、電波・通信工学専修、電子物性工学専修、電気エネルギー工学専修、情報システム工学専修、情報メディア工学専修、情報数理科学・物理工学専修の専修科目を開設している。

建築学専攻では、設計・計画系、構造・生産系、環境工学・設備工学系に分けて専修科目を開設している。設計・計画では、建築・都市計画専修の専修科目を開設している。構造・生産系では、建築構造専修、建築材料・施工専修の専修科目を開設している。環境工学・設備工学系では、建築設備・環境工学専修の専修科目を開設している。

土木工学専攻では、構造工学専修、コンクリート・材料工学専修、地盤・防災工学専修、水・環境工学専修、計画学専修の専修科目を開設している。

物質生命科学専攻博士前期課程では、有機・高分子化学専修、無機材料・固体物理化学専修、電気化学・表面工学専修、生命科学専修、環境化学工学専修の専修科目を開設している。

工業化学専攻博士後期課程では、有機物質化学専修、無機物質化学専修、表面物質化学専修、生命科学専修、環境化学工学専修の専修科目を開設している。

学生は入学時に履修する専修を選択し、専修科目として講義、文献研究、研究実験（演習を含む）を履修する。なお、専修科目を担当する教員が指導教授（指導教員）となり、指導教授の指示を受けながら履修する科目を選択する。
また、順次性のある授業科目を配置しており、科目名に「Ⅰ」「Ⅱ」を付記することで、その順次性を明示している。
さらに、コースワークとしての講義科目と、リサーチワークとして研究実験科目、文献研究科目、特殊研究科目を配置し、バランスのとれた教育体系となっているといえる。
そして、修了要件として、博士前期課程においては、専修科目を含み 30 単位以上の修得を求めている。博士後期課程においては、専修科目を含めて 8 単位以上の修得を求めている。

項目No	点検・評価項目
422	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

現在の状況（年度開始時）

内外における学修を推進し、多様な人々と協働できる能力、コミュニケーション能力および国際感覚を身に付けた人材を育成している。また、産官学連携および連携大学院教育を積極的に行い、多様な大学院教育を展開することにより、必要とされるイノベーション能力を身に付けた人材を育成している。

機械工学専攻では、各専修と学部とが有機的に連携を取って教育研究活動を行っている。また、「ものづくり」の原点に立って、理論やシミュレーションに留まらず、実験・演習を組み込んだ先端技術の修得に力を入れている。さらに、研究成果を国内外の学会等で発表することを奨励し、幅広く関連する専門知識の取集を図り、さらに社会的および国際的感覚を有する人材を育成している。また、博士前期課程においては、学部で得た基礎知識を基に、技術革新に対応できる高度の専門的能力を修得できるように教育課程を整備し、社会で即戦力となる人材を育成している。博士後期課程においては、大学、公的機関、企業等で自立して研究活動を行うことができる研究者を育成するため、主体的に創造的アイディアをもって製作・実験や研究ができるよう指導している。

電気工学専攻では、各専修において専門性を高めるとともに、創造力、グローバルな視野、プレゼンテーション能力も向上させるべく、教育研究を行っている。博士前期課程においては、学部教育との一貫性を保つことを特に重視し、技術者そして研究者として必要となる基本的なスキルを十分身に付けた上で、より発展させた専門知識の教育を行っている。博士後期課程においては、研究分野に関する高度な専門知識だけでなく、関連する分野の知識についても学修したうえで、国際的な視野にたって次世代の新しい枠組みを創造し、社会への貢献を目指した高い論理観を身に付けられるような研究指導を核にして行っている。

建築学専攻では、各専攻の専門性を究めることができる教育研究を行っている。一方で、各分野の専門科目を相互に履修することで、総合的に高度な建築技術が修得できるように配慮している。また、段階的な教育・研究内容のレベルを設定し、その充実を図るとともに、学部からの一貫性と関連性のある密度の高い教育研究を行っている。さらに、基礎的な専門技術とともに、建築業界で実践されている先端技術や実用性の高い技術に精通した人材を科目担当者に起用して教育研究の充実を図っている。他にも、専門科目での設計・研究成果を国内外の交流のある大学機関等で発表する機会を設け、幅広く専門知識の取集を図り、国際感覚を有する人材を育成している。なお、博士前期課程においては、一級建築士受験の実務経験認定科目として、各分野別に設計実務を体験するインターンシップ科目および設計関連の専門科目により、資格試験への対応に配慮した実践的な教育を行っている。

土木工学専攻では、博士前期課程において、学部での教育によって得た成果を発展させ、研究分野に関する幅広い専門的知識を修得させるとともに、分野横断的な学修により、広い学識をも修得させる教育を行っている。また、基礎研究を重視して、高度の専門的能力と創造性及び幅広く深い教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成している。博士後期課程においては、研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識の修得に加え、研究を通して、研究企画・推進能力、研究成果の説明能力を身に付け、学術研究における高い倫理性等を備えた新しい研究分野の創造を目指す研究者を育成している。

物質生命科学専攻博士前期課程および工業化学専攻博士後期課程では、学部教育とさらなる連携を強めた一貫型の教育を行っている。また、産業界との連携による実践的な教育を行っている。さらに、社会人基礎力、国際性の涵養などの人材育成を行っている。

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
421	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成していく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし		
評価の視点		
①	必要な授業科目が開設されているか。	開設されている/~~されていない~~
②	順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。	配置されている/~~されていない~~
③	専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。（学部）	適切である/適切でない
④	コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。（研究科）	取れている/~~取れていない~~
⑤	教育課程の体系および順次性を明示しているか。	明示している/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
422	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい（専門分野の高度化に対応した）教育内容を提供していく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし		
評価の視点		
⑥	学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。（学部）	提供している/していない
⑦	初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。（学部）	なっている/なっていない
⑧	専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。（研究科）	提供している/~~していない~~
⑨	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。（法務研究科）	提供している/していない
⑩	教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/~~行っていない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

項目No	点検・評価項目	評価の視点		自己評価					
				2014年度			2015年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
421	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①	必要な授業科目が開設されているか。	A	A	A	A	A	A
		②	順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。	A			A		
		③	専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。（学部）						
		④	コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。（研究科）	A			A		
		⑤	教育課程の体系および順次性を明示しているか。	-					
422	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	⑥	学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。（学部）		A			A	
		⑦	初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。（学部）						
		⑧	専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。（研究科）	A			A		
		⑨	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。（法務研究科）						
		⑩	教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。	-			A		

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院学則 第2、3章
2	関東学院大学大学院工学研究科履修規程
3	関東学院大学 理念・目的等 p.58～62
4	工学部・大学院工学研究科「2015年度履修要綱」

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
4	教育内容・方法・成果
43	教育方法

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
431	教育方法および学修指導は適切か。

現在の状況（年度開始時）

教育目標の達成に向け、授業科目毎に到達目標を定め、適切な授業形態を採用している。なお、授業科目毎の到達目標および授業形態はシラバスに明記している(資料 1)。

履修科目登録の上限においては、上限の設定はしていないが、学生は科目の選定および履修にあったっては、指導教授の指導を受けなければならない旨を履修規程に定め、指導体制の構築により履修科目登録数の適切性を補完している(資料 2)。

学修指導においては、各学期開始時に履修指導を実施している。そして、研究指導計画に基づいた研究指導・学位論文作成指導を行っている。また、授業科目担当者の全員にオフィスアワーを設定し、シラバスに明示することで、学生への学修指導のさらなる充実を図っている。学生は指導教授以外の教員からもアドバイスを受けることができる。

他にも、修士論文の審査会が近づいた時期に主査・副査を決めて、提出された論文だけの審査をするのではなく、入学時からの複数教員による指導制を構築し、学部卒業生とは異なる能力や価値を身に付けさせている。プレゼンテーションの技法のみならず、その発表内容を充実させることが大事である。また、学生は自身のテーマとしている狭い範囲の知識だけではなく、それぞれの専攻における幅広い基礎的な内容を身に付けることを同時に目指すことができる。

さらに、文献研究科目では輪講形式による授業を行い、研究実験科目ではプレゼンテーションの機会を多く設け、学生の主体的参加を促している。

履修規程、論文審査、学位取得のプロセス等については、履修要綱に明示している(資料 3)。また、シラバスと合わせて、ホームページでも公表している(資料 4、5)。

項目No	点検・評価項目
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。

現在の状況（年度開始時）

WEB シラバスシステムを導入し、全学部・研究科で統一書式による運用を行っている。また、シラバスの内容に対する組織的な検証体制を拡充させるために、段階的に組織的なシラバスチェック体制の整備を行うことを全学的に決定している。本研究科においては、2015 年度から組織的な検証が実施できるよう、専攻主任会議、工学部・工学研究科 FD 委員会で検討を行っている。なお、シラバス記載内容の履行については、秋学期に実施している「教育・研究指導改善アンケート」の回答結果を検証し改善に繋げている(資料 6)。

項目No	点検・評価項目
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。

現在の状況（年度開始時）

学則に基づき履修規程を定め、成績評価および単位認定を適切に行っている(資料 2、7)。

成績評価について、原則、学期末に実施する試験等に合格することで単位を認定しているが、レポート提出や授業への積極的な参加等の複合的な方法による成績評価も行われている。2014 年度は、試験の実施が 7%、レポート提出が 79%、それ以外が 14%であった。

単位認定について、単位の算定基準を定め、それに基づき授業科目の単位数を設定している。また、博士前期課程では、神奈川県内の大学間における学術交流協定大学の大学院において特別聴講学生として修得した単位、入学前に他大学院において修得した単位、科目等履修生として修得した単位について、研究科委員会の審議を経て、合わせて 10 単位を超えない範囲で単位認定を行っている。なお、神奈川県内の大学間における学術交流協定大学の大学院において特別聴講学生として修得した単位については、修了要件に算入できるのは 4 単位までとしている。

成績評価方法・基準については、シラバスにより学生に明示している(資料 1)。また、成績の評価および単位制度、単位の認定等、履修規程については、履修要綱において学生に明示している(資料 3)。

項目No	点検・評価項目
434	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。（※ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動を指す。「教員の資質向上」に関する活動は、点検・評価項目 No.304 参照。）

現在の状況（年度開始時）

FD 委員会において、「教育・研究指導改善アンケート」の実施および結果の検討を行い、授業方法の改善を図っている(資料 8)。

2014 年秋学期に実施した「教育・研究指導改善アンケート」に対する回答数は、博士前期課程在籍学生数 69 名に対して 45 名、博士後期課程在籍学生数 26 名に対して 15 名であった(資料 6)。

博士前期課程のアンケート結果については、10 項目中 3 項目において 4.0 以上の高い評価が得られている。これは昨年度の調査に比べて若干低下傾向を示すものであり、大学院生の満足度は足踏み状態にあると考える。「研究を進めていく上での教員の指導が適切である」が 4.29 で最も高く、「学位取得のための道筋が明確に示されている」が 4.22 でこれに続いている。教員の研究指導が適切であり、さらにそれが向上したものと考える。また、自由回答の記述においても研究指導に対する満足度の高さが見受けられる。

授業内容に関しての設問に対しても、いずれも 4.0 以上ないしは 4.0 に近い高い評価となっており、大学院の授業改善が進められ、授業全般については、その効果が認められる。ただし、自由回答においては「インターネット環境」や「図書館の蔵書数」に対する要望がある。これらに関しては、すでにさまざまな取り組みがなされているものの、工学研究科としてさらに充実に向けた方策を講じていく必要があるものと考える。

博士後期課程のアンケート結果についても、10 項目中 4 項目において 4.0 以上の高い評価が得られているが、回答者数が 15 件とごく少数なため、評価は参考程度に留めておく必要がある。「研究を進めていく上で教員の指導が適切である」が 4.13 で最も高く、「オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる環境が整っている」「提示されたカリキュラムが適切である」「授業時間割がバランスよく配置されている」がこれに続いている。逆に評価が低い設問としては、「研究を進めていく上で必要な図書や関連資料が整っている」「研究設備（実験設備・パソコン等）が十分に整備されている」などがあり、また自由回答として要望のあった「インターネットジャーナルの充実」など、引き続き整備、点検を継続していくことが必要である。

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
431	教育方法および学修指導は適切か。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・適切な授業形態を採用していく。 ・学修指導を充実させる。 ・学生の主体的参加を促すように授業方法を工夫していく。 ・研究指導計画に基づいた適切な研究指導・学位論文作成指導を行っていく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
評価の視点		
①	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）を採用しているか。	採用している/~~していない~~
②	履修科目登録の上限を適切に設定しているか。	設定している/~~していない~~
③	学修指導が充実しているか。	充実している/~~していない~~
④	学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。	用いている/~~用いていない~~
⑤	研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。（研究科）	行っている/~~行っていない~~
⑥	実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。（法務研究科）	行っている/行っていない

項目No	点検・評価項目	
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・FD委員会で組織的なシラバスチェックを行っていく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
評価の視点		
⑦	シラバスの内容の充実を図っているか。	図っている/~~図っていない~~
⑧	授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。	取れている/~~取れていない~~
⑨	シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。	行っている/~~行っていない~~

項目No	点検・評価項目	
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・成績評価と単位認定を適切に行う。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑩	成績評価方法・評価基準を明示しているか。	明示している/~~していない~~
⑪	単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。	行われている/~~行われていない~~
⑫	既修得単位認定は適切に行われているか。	行われている/~~行われていない~~

項目No	点検・評価項目	
434	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。（※ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動を指す。「教員の資質向上」に関する活動は、点検・評価項目 No.304 参照。）	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施していく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
2015 年度も教育・研究指導アンケートを実施した。		教育・研究指導の検証を継続する。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑬	教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。	実施している/~~していない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

項目No	点検・評価項目	評価の視点		自己評価					
				2014年度			2015年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
431	教育方法および学修指導は適切か。	①	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）を採用しているか。	A	A	A	A	A	A
		②	履修科目登録の上限を適切に設定しているか。	A			A		
		③	学修指導が充実しているか。	A			A		
		④	学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。	A			A		
		⑤	研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。（研究科）	A			A		
		⑥	実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。（法務研究科）						
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。	⑦	シラバスの内容の充実を図っているか。	A	B		A	A	
		⑧	授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。	A			A		
		⑨	シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。	C			A		
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。	⑩	成績評価方法・評価基準を明示しているか。	A	A		A	A	
		⑪	単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。	B			A		
		⑫	教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。	A			A		
434	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	⑬	教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。	A			A		

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	年間の授業計画の概要(Web シラバス) https://info.kanto-gakuin.ac.jp/portal/slbsskgr.do?clearAccessData=true&contenam=slbsskgr&kjnmnNo=7
2	関東学院大学工学研究科履修規程
3	工学部・大学院工学研究科「2015 年度履修要綱」
4	関東学院大学ホームページ「5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること」 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-05
5	関東学院大学ホームページ「6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること」 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-06
6	2014 年度秋学期実施「教育・研究指導改善アンケート報告書」
7	関東学院大学大学院学則　第 2 章
8	関東学院大学工学部・大学院工学研究科FD委員会規程
9	2015 年度秋学期実施「教育・研究指導改善アンケート報告書」

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
4	教育内容・方法・成果
44	成果

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
441	教育目標に沿った成果が上がっているか。
現在の状況（年度開始時）	
大学院においては、専門分野の高度性から、学位の取得が学修成果を測る最も適切な指標であり、毎年適切な審査により学位取得者を輩出していることから、教育目標に沿った学修成果が上がっているといえる。本研究科においては、就職状況および研究成果の公表件数等を評価指標として用いることも検討している。 なお、学生の自己成長評価については行っていない。また、卒業後の評価（就職先評価や卒業生評価等）については、研究室および専攻単位での把握に留まっており、研究科全体としての取りまとめには至っていない。	

項目No	点検・評価項目
442	学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
現在の状況（年度開始時）	
学則および学位規則、その他関連規程に基づき、履修規定等を定め、学位授与の基準や手続き等について履修要綱等に明示およびホームページに公表している。そして、専攻会議の議を経て、研究科委員会および研究科委員長会議において厳正な査定（審議・承認）を行い、学位授与を適切に行っている(資料 1～11)。 学位取得の要件および論文審査については、履修規程に定め、履修要綱に明示している。また、履修要綱には履修規程のみならず、修士論文および博士学位論文審査の内規や、修士論文および課程博士審査の手順についても明示している。 博士前期課程においては、最低 3 名の教員による論文審査と、それに引き続く発表会での質疑応答によって、学位授与の可否を決定している。審査の手続きについては明確化し、学生にも周知している。博士後期課程においても、論文審査の手続きについて学生に明示し、これに従い審査を進めている。 なお、両課程において、論文の内容に関する評価は審査委員に任されているが、明確な基準を設定する必要があり、自己点検・評価委員会で検討している。2013 年度に受審した大学基準協会による認証評価においても、「学位論文審査基準が明文化されていないため、課程ごとに履修要綱等に明記し、あらかじめ学生に明示するよう、改善が望まれる」との提言を努力課題として受けており、学位論文審査基準については 2015 年度中に整備を行い、2016 年度から履修要綱に記載することが決定された(資料 12)。	

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
441	教育目標に沿った成果が上がっているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教育目標に沿った成果を上げていく。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
学修成果の検証や学生の自己評価がなされていない。		学修成果の評価指標および学生の自己評価方法を開発する。
評価の視点		
①	学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。	開発~~している~~/していない
②	学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。	~~行っている~~/行っていない

項目No	点検・評価項目	
442	学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・学位論文審査基準を制定する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
学位論文審査基準を履修要綱に記載した。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
③	学位授与基準、学位授与手続きは適切か。	適切である/~~適切でない~~
④	学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。（研究科、法務研究科）	講じている/~~講じていない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th colspan="2" rowspan="3">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="2">441</td><td rowspan="2">教育目標に沿った成果が上がっているか。</td><td>①</td><td>学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="4">B</td><td>C</td><td rowspan="2">C</td><td rowspan="4">C</td></tr>
<tr><td>②</td><td>学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。</td><td>B</td><td>C</td></tr>
<tr><td rowspan="2">442</td><td rowspan="2">学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</td><td>③</td><td>学位授与基準、学位授与手続きは適切か。</td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>④</td><td>学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。（研究科、法務研究科）</td><td>B</td><td>A</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料 No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院学則
2	関東学院大学学位規則
3	関東学院大学大学院研究科博士後期課程を経た者の学位論文審査に関する取扱内規
4	関東学院大学大学院研究科博士後期課程を経ない者の学位論文審査に関する取扱内規
5	関東学院大学大学院工学研究科履修規程
6	関東学院大学大学院工学研究科修士論文内規
7	関東学院大学大学院工学研究科博士学位論文審査に関する取扱内規
8	工学部・大学院工学研究科「2015 年度履修要綱」
9	工学研究科博士前期課程の課程修了に関する修士論文審査の報告及び査定方法について
10	博士前期課程修了要件についての申し合わせ事項
11	関東学院大学ホームページ「6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること」 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-06
12	2015 年 2 月研究科委員会議事録

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
5	学生の受け入れ

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
501	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。

現在の状況（年度開始時）

＜3 ポリシー（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））について＞

各研究科ホームページ、募集要項などの広報媒体で入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を公開している（資料 1、2、3）。

2014 年度に大学のポリシーから再策定を行うこととした。大学院全体のポリシーは 2014 年度末に策定済だが、工学研究科のポリシーは未策定である。そのため、各方針の間での整合性は取れていない。

＜修得しておくべき知識等の内容・水準について＞

工学研究科が求める基礎学力として大学で修得しておくべき内容について明示されていない。

＜障がいのある学生の受け入れについて＞

障がいのある学生の受け入れについては、大学全体の姿勢に準じて工学研究科も対応している。受験生からの事前の申し出には、原則として来校を求めて、就学上の措置まで見据えて、出願する研究科・専攻が直接、事前相談に応じている。その上で、研究科・専攻の各入学試験において適切な措置を取り、障がいのある学生も公平に受け入れている。

項目No	点検・評価項目
502	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

現在の状況（年度開始時）

学生募集および入学者選抜は、文部科学省の定める「大学入学者選抜実施要項」に則り、「大学院入学者選抜規程」を定めて実施している。大学院入学者選抜規程により大学入試委員会を設置し、研究科の入学試験に関わる基本事項を審議している。大学入試委員会では入学者選抜方法、入試日程、入試実施体制、入試査定原案（入試区分毎の合格者数）などを審議する。（資料 4、5）

2015 年度からは組織改正により、大学院入試に関わる意思決定は大学入試委員会に代わり研究科委員長会議で行われる予定である。研究科委員長会議も、大学入試委員会と同様に学長を議長とする会議体であり、学長の責任の下に入学試験を実施する体制は維持される。

工学研究科では、入学者選抜方法において、各専攻の専攻会議により作成審議された合格者選考案をもとに、大学院工学研究科委員長および各専攻の専攻主任からなる専攻主任会議において審議し、さらに研究科委員会の議を経て承認する。

受験資格、選抜方法についても、入試区分ごとに詳細に定義し、入試広報やホームページで公開している。

入学試験区分ごとの募集要項を公開するとともに、受験生に対して前年度の試験問題を公開して示すことで、入学者選抜における透明性を確保している。

項目No	点検・評価項目
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

現在の状況（年度開始時）

2015 年度における定員充足率（収容定員に対する在籍学生数比率）は博士前期課程 0.67（収容定員 92 名：在籍学生数 62 名）、博士後期課程 0.44（収容定員 54 名：在籍学生数 24 名）であり、適正の範囲を下回っている。

入学定員に対する入学者数比率の過去 5 年間の平均は博士前期課程 0.90 で適正な範囲であるが、博士後期課程 0.30 であり、適切な範囲を下回っている（資料 6）。

今後、一層の努力と工夫によって入学者を増やす必要がある。

博士前期課程については、社会人入学者や学内推薦入学者が多く、教育課程の編成・実施方針や学位授与方針に則った教育内容の充実をはかりつつ、研究科ホームページ等による広報に努める。

項目No	点検・評価項目
504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

現在の状況（年度開始時）
大学入試委員会において、当年度の学生募集および入学者選抜結果について検証し、次年度の学生募集戦略および入学者選抜方法、入試区分毎の募集人数を検討している。 研究科では研究科委員会をはじめ各委員会組織で学生募集および入学者選抜の適切性を検証している。 工学研究科では、研究科委員会において、学生募集および実施結果を承認するとともに、検証を行っている。 研究科委員会において、入試査定の中で、専攻ごとに合格基準と収容定員について検証している。

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
501	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・再策定した大学全体・大学院全体のポリシーに基づき、点検整備する。 ・基礎学力として大学で修得しておいて欲しい内容について各専攻において確認し整備した上で明示する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
文科省指針を待ってポリシーの策定を行うこととしたため、工学研究科のポリシーは未策定であり、各方針間の整合性が取れていない。	2016 年度に文科省指針を基に再策定する（予定）。	
評価の視点		
①	求める学生像（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））を明示しているか。	明示している/~~していない~~
②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性は取れているか。	~~取れている~~/取れていない
③	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。	明示~~している~~/していない
④	障がいのある学生の受け入れ方針があるか。	方針がある/~~ない~~

項目No	点検・評価項目	
502	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・3 ポリシーの点検整備を行い、3 ポリシーの再策定を行う。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
文科省指針を待ってポリシーの策定を行うこととしたため、工学研究科のポリシーは未策定である。	2016 年度に再策定予定の工学研究科 3 ポリシーを基に、適正に学生募集および入学者選抜を行う。	
評価の視点		
⑤	学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。	適切である/~~適切でない~~
⑥	入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切か。	適切である/~~適切でない~~

項目No	点検・評価項目	
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・学部入学時から大学院についての紹介を行い、定期的に大学院進学に対する利点を説明する機会を増やす。また、各媒体などを利用して広報活動を盛んに行う。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
大学院進学の利点などを説明する機会を増やすために、学内進学説明会を開催した(資料7)。		入学希望者数の増加に向けて、今後も6月と10月の2回、学内進学説明会を開催する。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑦	収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。	~~適切である~~/適切でない
⑧	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。	対応している/~~していない~~

項目No	点検・評価項目	
504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・学生募集および入学者選抜を、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているか検証する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		
評価の視点		
⑨	定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/~~行っていない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th colspan="2" rowspan="3">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="4">501</td><td rowspan="4">入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。</td><td>①</td><td>求める学生像（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））を明示しているか。</td><td>A</td><td rowspan="4">C</td><td rowspan="9">C</td><td>A</td><td rowspan="4">C</td><td rowspan="9">C</td></tr>
<tr><td>②</td><td>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性は取れているか。</td><td>C</td><td>C</td></tr>
<tr><td>③</td><td>入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。</td><td>B</td><td>B</td></tr>
<tr><td>④</td><td>障がいのある学生の受け入れ方針があるか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">502</td><td rowspan="2">入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。</td><td>⑤</td><td>学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切か。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">503</td><td rowspan="2">適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</td><td>⑦</td><td>収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。</td><td>C</td><td rowspan="2">C</td><td>C</td><td rowspan="2">C</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>504</td><td>学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</td><td>⑨</td><td>定期的に検証を行っているか。</td><td colspan="2">A</td><td colspan="2">A</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料 No	根拠資料の名称
1	大学及び学部・研究科の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び入学者受入方針 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/disclosure_1-3.pdf
2	「関東学院大学 大学院 －工学研究科－」 http://grad.kanto-gakuin.ac.jp/modules/kougaku19/
3	2015 年度大学院学生募集要項
4	関東学院大学院入学者選抜規程
5	関東学院大学入試委員会規程
6	2015 年度大学基礎データ 表 4
7	2015 年 5 月、11 月工学研究科委員会議事録

2015 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名	工学研究科

基準 No.	基準項目
7	教育研究等環境

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
704	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

現在の状況（年度開始時）

教員には個室、大学院生には個別の学修空間が概ね与えられており、専門分野の教育研究を落ち着いた環境の中で深く実施し得る態勢となっている。また、学術フロンティア推進事業、ハイテクリサーチセンター整備事業、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の実施などを経て、各専攻とも基礎的な実験設備から先端的な設備までを一通り備えており、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備している(資料 1、2)。

ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)など教育研究支援体制を整備している(資料 3、4)。

教員の研究費・研究室については確保されている。研究専念時間については学部間や教員間で差があり、一律的な確保が難しい状況である。

2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目	
704	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	
方針・目標・取組・改善方策等		
・教育研究等を支援する環境や条件を適切に整備する。		
効果が上がった・改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし		
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし		
評価の視点		
⑪	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。	整備している/~~していない~~
⑫	ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。	整備している/~~していない~~
⑬	教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。	確保されている/~~されていない~~

3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

S ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

A ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

項目No	点検・評価項目	評価の視点		自己評価					
				2014年度			2015年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
704	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	⑪	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。	A	A		A	A	
		⑫	ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。	A			A		
		⑬	教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。	A			A		

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学自己点検・評価報告書2005
2	関東学院大学総合研究推進機構HP2015
3	関東学院大学ティーチング・アシスタントに関する規程
4	関東学院大学環境共生技術フロンティアセンター及びハイテク・リサーチ・センターリサーチ・アシスタントに関する規程